

2010年6月12日

NPOボルネオ オランウータン サバイバル ファンデーション日本

生物多様性の宝庫・インドネシアの熱帯雨林を
市民の手で100年先まで守るプロジェクト始動

NPOボルネオ オランウータン サバイバル ファンデーション 日本(略称=BOS日本)、東京都西東京市田無町3-5-4 代表理事 宮崎林司は、インドネシアの東カリマンタン州に絶滅の危機のオランウータンが住める天然の熱帯雨林保護区を確保するために「市民トラスト寄付金」で86,450ヘクタール(約2億6千2百万坪)を100年先まで確保するプロジェクトを開始いたします。

国連(UNIC)のホームページでも「絶滅まであと1分」といわれるほどに生存の危機に在るオランウータン、その生息数は、生物多様性の宝庫である熱帯雨林の健全度をあらわすといわれています。

1960年代後半からの日本向け木材生産のための森林伐採から始まり、その後は農地への転用やパームオイルなどのプランテーションの開発など、私たち人間の活動により天然の熱帯雨林が破壊され、住まいを無くしたオランウータンが絶滅の危機にあります。

BOS日本代表宮崎林司は1996年にインドネシア東カリマンタン州パリックパパン市郊外にあるワナリセットのオランウータンリハビリセンターをはじめて訪問して以来、保護活動に参加してきました。その活動を通じて、現地からの要請を受けて2003年6月にNPO法人として設立された団体です。

<http://www.bos-japan.jp/about/index.html>

日本国内での写真展、講演会などを通じての広報活動や現地へのツアー実施、BOS本部の会員募集などを行って参りました。

インドネシアのボルネオ オランウータン サバイバル ファンデーション(BOS財団)は、1998年に設立されて、母親を無くしたオランウータンを自然界へ復帰させるためのリハビリ訓練を行っています。<http://www.orangutan.or.id/home>

現在も東カリマンタンと中カリマンタンで831頭のオランウータンの訓練を行っています。

訓練を終えたオランウータンは天然の森にリリースすべきなのですが、森林破壊のスピードが早くリリースをするための天然の熱帯雨林の確保がこの7年間は出来ませんでした。

そのような状況下でインドネシア政府によって発表された「オランウータンアクションプラン」に基づいて2015年までにすべてのオランウータンを自然の生息地にリリースする必要があります。

BOS財団は林業省にオランウータンをリリースする目的の森林保護管理権の申請を行い、昨年11月に林業省から86,450ヘクタール(2億6千2百万坪)の林区の権利が発給されました。

この権利履行のためには、技術提案書、環境影響評価、環境管理企画、環境監督企画などの作成提出が必要です。

このための資金を調達してBOS財団を支援するために「市民トラスト寄付」をはじめました。

わたしたち日本人は、建築、家具などの木材から始まり、現在では開発された森林のあとに造成されパームオイル農園から採取されるパームオイルをお菓子やマーガリン、塗料、化粧品など大量に使用しています。

知らず知らずに日本人の生活に深く係っている「熱帯雨林の減少」と「オランウータンの絶滅の危機」を回避するために多くの市民の皆さんに参加していただき、保護林を100年先まで確保するため、BOS日本として、この活動をはじめました。

1坪の天然林を100年先まで保護する費用は、1円です。伐採して植林で修復する費用はこの何百倍も必要です。

この企画を通じて自然を壊さない「人類の賢い選択」に参加できる機会の提供を行います。

今年は生物多様性の国際会議が名古屋で開催されますが、このプロジェクトへの参加を通じて、熱帯雨林の大切さ、オランウータンをはじめさまざまな生物の多様性維持の大切さへの理解を深めて頂く機会の提供になる事を願っています。

■団体概要

名称 ボルネオ オランウータン サバイバル ファウンデーション 日本 (BOS日本)

URL <http://www.bos-japan.jp>

法人認証番号 15 生都協市特第 228 号

代表理事 宮崎 林司

主たる事業所 〒188-0011 東京都西東京市田無町3-5-4

設立年月日 2003年6月16日

活動と事業

①BOS会員募集

②日本国内で寄付の募集と啓蒙活動

③サンボジャレストリ・リハビリセンター訪問と植林体験ツアーの実施

※現地BOS会員の募集

■本件に対するお問い合わせ

NPOボルネオオランウータンサバイバルファンデーション日本(BOS日本)

担当:宮崎 林司

TEL:042-451-5346

FAX:042-465-7241

Eメール pongo@bos-japan.jp